

1983年の札幌市におけるインフルエンザの 流行について

Epidemiological Studies on Influenza in Sapporo, 1983

熊谷 泰光 吉田 靖宏 塚田 正和
林 英夫 高杉 信男

Yasumisu Kumagai, Yasuhiro Yoshida, Masayori Tsukada,
Hideo Hayashi and Nobuo Takasugi

1 緒 言

札幌市におけるインフルエンザの流行でA(H₁N₁)型(ソ連型)は1978年1月に大流行を起こし1981年まで4年間連続して流行した。

A(H₃N₂)型(香港型)は1978年, 1980年, 1982年と1年毎に流行を繰り返した。

A(H₁N₁)型は1978年以降4年連続流行したが, 1983年には流行がなく, 過去4年間のワクチン接種が小学生で平均75%, 中学生で82%と良好であり抗体保有率が高いこと, またA(H₃N₂)型についても同様に3回の流行と高抗体保有率から, 大幅な変異株が出現しなければ大きな流行にならないと考えられた。(図1)

2 方 法

インフルエンザウイルスの分離は, 鶏卵, MDCK細胞を使用し33°Cで行った。

分離株の同定及びペア血清による血清学的検査は, 日本インフルエンザセンター分与の「インフルエンザウイルス同定用抗原及抗血清」を使用した。

3 結果と考察

1982年12月に市内の1中学校で患者数28名の小規模なインフルエンザ様疾患の発生があった。

その後, 冬休み明けの1月下旬から局所的な流行がみられ, 2月に入って全市的な流行となり患者数も増加した。

1982年12月から83年3月までの学級閉鎖校数は28校, 患者数4,863名となり, 前年の流行と比較して学級閉鎖校で半数, 患者数では約1/6となった。

表1にウイルス分離と血清学的検査状況を示した。

57名の患者うがい液からインフルエンザウイルスA(H₃N₂)型が10株分離された。

ペア血清による赤血球凝集抑制反応では, 56名中12名にA(H₃N₂)型に対して有意の抗体価上昇がみられた。

1982年12月までに横浜, 広島, 宮城でA(H₃N₂)型が分離され, 83年に入ってから全国的にA(H₃N₂)型が分離された。¹⁾

札幌では2月に入ってから本格的な流行となり分離されたウイルス型はすべてA(H₃N₂)型であった。流行の規模は全国的にみて小規模¹⁾であったのと同様に札幌市においても小規模であった。

4 文 献

- 1) 厚生省公衆衛生局保健情報課「インフルエンザ様疾患発生報告, 第1報(57 12 10)~第15報(58.3 28)

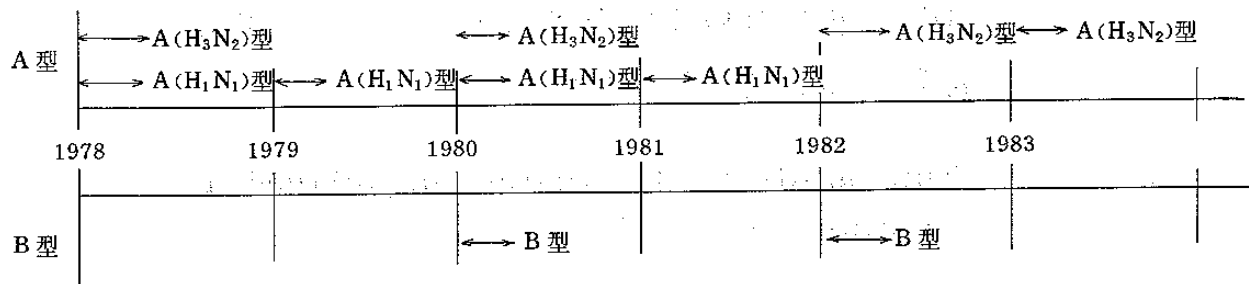


図1 札幌市における1978年以降のインフルエンザの流行

表1 インフルエンザウイルス分離及び血清検査

施設名	材料採取月日	検査数	ウイルス分離		血清診断*	
			陽性数	ウイルス型	陽性数	ウイルス型
八条中 (豊平区)	57.12.10	8	0		0	
陵北中 (西区)	58.2.1	5	2	A(H ₃ N ₂)型	1	A(H ₃ N ₂)型
篠路中 (北区)	58.2.1	9	2	A(H ₃ N ₂)型	3	A(H ₃ N ₂)型
常盤中 (南区)	58.2.4	10	1	A(H ₃ N ₂)型	1	A(H ₃ N ₂)型
白石中 (白石区)	58.2.7	10	3	A(H ₃ N ₂)型	4	A(H ₃ N ₂)型
北野中 (豊平区)	58.2.10	7	0		1	A(H ₃ N ₂)型
桑園小 (中央区)	58.2.19	8	2	A(H ₃ N ₂)型	2	A(H ₃ N ₂)型
計		57	10	A(H ₃ N ₂)型	12	A(H ₃ N ₂)型

* ペア血清のHI抗体価で×4以上の上昇がみられたもの。